



メキシコ歴史文化講演会 第3回

メキシコ日本移民 120 周年記念講演会

戦後メキシコ日系社会の動向と変容

— 日本のパートナーとしてのメキシコ —

南山大学外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科准教授

第3回講師 浅香幸枝

外務省のメキシコ合衆国に関する基礎データ（2016年6月）によれば、日本とメキシコは伝統的に友好関係にある。1888年の外交関係樹立以来、2002年の日墨経済連携強化のための協定（EPA）の締結交渉開始の合意、2004年にEPA署名し2005年に発効している。このような背景で年々貿易額は増え、2015年10月時点で957社の日系企業がメキシコに進出している。2016年1月には、中央高原（バヒオ）地域での進出企業と在留邦人の増加により、グアナファト州レオン市に日本国総領事館が設立された。2017年6月の基礎データでは、2016年10月現在の進出企業は1,111社となっている。人口約1億2,700万人のうち日系人は約2万人、在留邦人は11,390人となっている。一方、日本に住む在日メキシコ人は約3,354人である。

日系社会と日系企業

2016年8月9日時点で、日系企業が日系社会からどのように捉えられているのかを明らかにすることは、120年の歴史を持つ日系社会と日本および日本人がどのような連携と協力ができるのかを考察する基礎的作業である。

今回の日系企業のメキシコ進出は、1970年代末から1980年代にかけてのメキシコの石油開発ブームに並ぶものである。バヒオに自動車産業が集積してくることは、日系社会にも大きな変容をもたらすのではないかと推測する。現地で活躍する日系人の集うパンアメリカン日系協会の歴史（1981年～）を振り返ると、日系移民は社会の発展に寄与し、さらに出自の文化で役立つものを提供して現地社会に受け入れられてきた（浅香幸枝『地球時代の日本の多文化共生政策—南北アメリカ日系社会との連携を目指して—』2013、明石書店）。企業進出に際してもこの点が考慮されているのかを検討することも重要である。先行研究として経営論から論じられるものはあっても、日系企業と日系社会とを結び付けて研究するものはほとんど存在しない。

2017年メキシコへの最初の移民である榎本移民から120周年を迎える日系社会は、近年の日本の自動車産業の進出に伴いどのような変化をするのであろうか。また、どのような協力関係が考えられるのであろうか。本研究では、先行研究により、メキシコの日系企業進出と日系社会を概観した後、外務省領事移住部報告（1984；1992；2004）とメキシコシティの日系人リーダーへのインタビュー調査（2016年8月29日～9月3日）によって、これを明らかにする。

メキシコ日系社会の発展と日系企業について、1989年まで概観した先行研究として、次の書物がある。『海を越えて五百年—日本メキシコ交流史—』（2016）は、荻野正蔵・元「週刊にちぼく新聞」社主により出版された。太平洋を挟んで日本とメキシコが隣国であり、500年に亘り両国が平等条約の下、移動した日本人がメキシコでどのように受け入れられ、良好な外交関係や企業進出に貢献してきたかを描いている。本書は1989年までの日系企業の進出を紹介している。さらに、「第9章日本人会」では、日本人会が1910年頃始まり、「墨都日本人会」（1926-1942）が戦時下の相互扶助組織「共栄会」（1942-1950）へと変わり、1957年に現在の「日墨協会」が結成されまとまっていく様子をまとめている。

= 目次 =

- | | | |
|---|----------------|-------|
| 1. 第3回講演会報告：「戦後メキシコ日系社会の動向と変容」 | 南山大学准教授 浅香幸枝 | ...1 |
| 2. 第4回講演会報告：「私がメキシコから学んだこと」 | ヴァイオリニスト 黒沼ユリ子 | ...3 |
| 3. 私とメキシコ：「黒沼ユリ子のヴァイオリンの家—周年記念コンサート—御宿を訪ねて」 | 会員 加藤勝巳 | ...7 |
| 4. 第2回講演会報告：「チアパスに入植したエノモト移民と榎本武揚(その2)」 | 作家 山本厚子 | ...9 |
| 5. メキシコへの誘い：「夏休みにメキシコへ！」 | 会員 メキシコ観光 磯辺厚子 | ...11 |
| 6. 活動報告：「Fiesta Mexicana 2017 in お台場の報告」 | 会員 実行委員長 三村秀次郎 | ...12 |
| 7. 活動報告：「アミーゴ会 2018年度総会・懇親会の報告」 | アミーゴ会事務局 | ...13 |
| 8. トピックス：ヴァイオリンの家の支援/夏時間スタート/広島にメキシコ選手団/ラテンアメリカへの道...8 /あとがき...14 | | |





左：日墨会館

右：メキシコ日本商工会議所



自動車関連企業の進出(集積)

自動車産業のメキシコ進出と近年の雇用に関しては次の論文がある。「メキシコ自動車産業の急成長—雇用と賃金はどうか変化したか—」は、近年のメキシコの自動車産業のめざましい成長の理由は、米国に隣接しており、賃金が安いことに加え、2010年代には、「集積」という新たな優位が加わったことであると分析している(星野『ラテンアメリカレポート』32巻2号、2015:2-13)。本論文はさらに自動車産業集積州の賃金動向の変化について目下のところ全国平均と比較して賃金上昇はみられないが、外国直接投資によって賃金上昇の可能性はあると述べている。

また、『ラテンアメリカ時報』は2016年春号で「特集：変貌著しいメキシコのいま」を掲載している(ラテンアメリカ協会、2016)。特集では、企業関係者がメキシコ進出する際に気をつけなければならない情報が満載されている。筆者は「メキシコ日系社会におけるトランスナショナル・リレーションズ—南北アメリカおよび日本との人のつながり、過去・現在・未来—」を寄稿している。また、日系企業のメキシコ進出に関連する論文「メキシコ進出が続く日本企業への期待と課題—ハリスコ州の投資誘致と貿易促進策を事例に—」(瀧澤寿美雄)は、日本企業が地元州政府に期待するものとして：1.日本語で対応できるジャパンデスクの設置、2.州政府のインセンティブ、3.インフラの整備と治安対策の強化を挙げている。一方、州政府が日本企業と駐在員に期待することとして：1.投資業種の多角化、2.メキシコ製品の対日輸出促進支援者となることである。双方がwin-winとなるような投資が大切だとの認識を示している。

日本語が広げる就職機会

さらに日系社会との関連から見ると、メキシコは南北アメリカの日系社会をつなぐ要の役割を果たしており、パンアメリカ日系大会(1981年)の最初の開催国であり、また13カ国の国々が開催国になったときのサポーターとなっている(浅香 2016)。ブラジルなどと比べるとメキシコにおける日系人数は決して多くはないが、南北アメリカや日本とのネットワークの中心のひとつとなっている。

外務省領事移住部の海外における邦人及び日系人団体の報告書とメキシコ日系人リーダーへのインタビュー調査をした。これによって明らかになったのは、1970年代末から1980年代にかけてはメキシコシティを中心として、日系企業と日系人およびメキシコ人の交流の場として、日墨協会があったが、2000年代になると日本語や日本文化がメキシコ人にも日系人にも人気となり地方へも拡散したことと、近年のバヒオへの自動車産業の進出によって、日本語が就職するためのツールとなっていることである。それを支えるかのように日系団体が語学や文化を普及し、国際協力機構 JICA の

ボランティアが派遣されている。日系企業進出は雇用の拡大と日本語と日本文化の普及とともに進んでいるように観察できる。

「日系企業進出に伴い日系社会はどのように変容し、どのような協力が考えられるか」という問いに対して、本研究成果は、日系人に限らず、非日系のメキシコ人にとっても就職機会が広がっており、日本語や日本文化の需要が生まれていることが確認できた。さらに、スペイン語と日本語が使えることは就職に有利な条件となり、この分野で日系人の活躍が期待できる。また、日系社会との協力により、メキシコの文化を理解しながら、摩擦を避け、さらに友好関係を築くことが可能だと分析する。

日系人が果たす大きな役割

日本とメキシコに限らず、ラテンアメリカ全域を見渡すとき、日本の中南米への開発政策は重要である。2016年11月1日に「日本・ラ米ビジネスフォーラム：『発展をともに、主導力をともに、啓発をともに』」が日本の米州開発銀行(IDB)加盟40周年を記念して開催された。この副題は2014年の安倍首相のサンパウロでのスピーチから取ったものである。この会議のなかで、日系企業の進出と日系社会との関連について見ると、質の高いインフラや産業を官民挙げてラテンアメリカ地域に展開するものであり、日系人が果たす役割はとても大きい(IDB『統合の好循環：日本とラテンアメリカ・カリブ値域の関係 過去、現在、未来』2016:6)。

進出先の実態を良く知り、生活改善や向上に貢献していくことは対日イメージを向上させるだけでなく、実際の日本の生活改善や向上にも寄与する双方向性を持つものだと考察できる。なぜならば、人を直接介した交流は、その実生活を垣間見ることになるからである。また、憧れの源泉は実際の生活の豊かさや質にあるからだ。

日本がメキシコやラテンアメリカから人生を楽しみ、家族を大切に生き方を学ぶことも重要である。

(文中敬称略) (あさか さちえ)

筆者インタビュー：

- 遠藤茂男 メキシコ日本商工会議所事務局長
(2016年8月30日、メキシコ日本商工会議所にてインタビュー)
- 荻野正蔵 「にちぼく新聞」社主
(2016年9月1日、日墨会館レストランにてインタビュー)
- 春日カルロス パンアメリカ日系協会名誉会長
(2016年9月1日、自宅にてインタビュー)
- 春日正子 夫人
(2016年9月1日、自宅にてインタビュー)
- 中畝明博 日墨協会事務局長
(2016年8月30日、日墨協会にてインタビュー)

謝辞：

本研究は、2016年度南山大学パッヘ研究奨励金 I-A-2 による研究成果の一部である。記して感謝申し上げる。また、インタビューに応じてくださった方々にお礼申し上げる。

本報告は、以下の論文の抜粋であるので、詳細は論文を参照していただければ幸いである。

浅香幸枝「メキシコにおける日系企業進出に伴う日系社会の変容の研究—人の移動と異文化理解の視座から—」『グスタボ・アンドラーデ先生追悼論文集：ラテンアメリカ研究の新地平を求めて』上智大学アンドラーデ先生追悼論文集編集委員会編、2017年8月、127-151ページ。(了)

「私がメキシコから学んだこと」

会員 ヴァイオリニスト 黒沼ユリ子

私がメキシコの文化人類学者の妻として初めてメキシコの大地に足を踏み入れたのは、1962年の6月のことでした。東京で生まれ育った私が何故メキシコ人と結婚したのか、まずその理由をお話ししましょう。

1959年の夏、私はオーストリアの首都ウィーンで開かれていた「世界青年平和友好祭」に参加していました。それはその前年の1958年の夏に、私が「チェコスロヴァキア政府招待給費留学生」を外務省が一般募集するという記事を新聞の片隅にみつけたことに端を発していたのです。「高校卒業以上」という条件が付いていましたが、まだ桐朋学園高校の3年生の1学期を終えただけの私は「卒業見込書」で何とか受験を認めて頂き、10月に試験を受けたところ、驚いたことに合格してしまいました。そして何とその1ヶ月後の11月には首都のプラハに到着し、すぐに音楽芸術アカデミー（大学）に入学を許されたのです。その翌年の夏のウィーンでの、この「世界青年平和友好祭」には、チェコから選抜された大学生たちも参加できると耳にしたので、私もそのコンクールを受けてみたところ合格できたので、彼らと共にまずスロヴァキアの首都ブラチスラヴァで集合し、そこからバスでウィーンに入ったのですが、現地では日本からの代表团と合流して「邦楽四人の会」のお姉さまたちと同じテントに滞在しました。



運命の「プリーズ・シッダウン・ヒア」

そして、これは私が「日本文化の夕べ」に出演したその翌日、参加者のためのフェスティバルの大食堂のことだったのです。昼食を載せたトレイを持って席を探していた私は、たまたま目と目が合った一人の若い男性から「どうぞ、ここにお掛けください」と声をかけられたので、そのテーブルの席に坐わったのでした。

「僕はメキシカンですが、君は昨日の「日本文化の夕べ」でヴァイオリンを弾いた人ではないですか？」と彼が切り出したのです。

「ええそうですが。あなたは、あのホールに来ていたんですか？」「私は何色の服を着ていましたか？」と真偽を確かめたくなくなった私。

「黄色だったねえ」「スメタナの曲が特に気に入りましたよ」と彼。

嘘ではなかったのです。（この人はきっと音楽が好きな人に違いない）と直感した私が、今度は質問する側にまわりました。

「あなたはメキシコ人ですって？あの素晴らしい名ヴァイオリニストのヘンリック・シェリングのポスターにはいつも<メキシコ>と書かれていましたけど・・・」

「そうですよ。彼とはメキシコ大使館でのパーティーで長い会話をしたこともあります」

「えっ、本当ですか？」

日本ではそれまで全く無名だったヘンリック・シェリングの演奏を私はその年の「プラハの春」国際音楽祭で初めて聴き、その名演奏にすっかり感動して、憧れていたのです。（この人はあのシェリングを識っているんだわ）と分かった私は、次の質問をしました。

「そのメキシコ大使館って、どこにある大使館ですか？」

「プラハのですよ」

「まさか！」私はほとんど絶句してしまいました。

何たる偶然！……実は彼もプラハに住み、カレル大学で考古学の博士課程に在籍していたことが判明したのですから。

このたったの三語の「プリーズ・シッダウン・ヒア」を真に受けて座ってしまった私でしたが、その瞬間から自分の人生の歩みが180度転換してしまおうとは、一体その時、誰に予測できたでしょうか。

運命のプラハでメキシコ人と結婚

その秋にはプラハで連絡をとりあい、再会が実現しました。それ以降の二人には、プラハのあの申し分のないロマンティックな石畳の細道を歩きながら、劇場に、コンサートにとデートが重なって行きました。でもそのたびに、私は彼との会話のテーマに十分についていけない自分を発見させられたのです。

「ローザ・ルクセンブルグって誰？」「フランツ・ファノンの<地に呪われた者>ですって？」「知らないわ」と私。

「パブロ・ネルーダやマルセル・ブルーストも読んだことないのかい？」と彼。

私は幼い頃からずっとヴァイオリンを通しての“西洋音楽漬”で過ごし、プラハに来てからも与えられていた奨学金が、当時の労働者の給料と同額であると知ってからは、「それなら自分も毎日、少なくとも8時間はヴァイオリンの練習をしなければ労働者たちに失礼になるわ」とばかりに、音楽関係以外の勉強は「時間の無駄」ぐらいにしか考えずに過ごしていたのです。が、彼と知り合ってから歴史、社会、文学、美術、演劇、果ては政治にいたるまで、音楽以外の知識が人間形成の上でいかに不可欠であるかを思い知らされ、これまでの自分がどんなに、いわゆる<音楽バ

カ>であったかを自覚せざるを得なくなったのです。

「こういう知識も君のヴァイオリンの演奏に、もっと深みをもたらせるようになると思うよ」とまで言われてしまい、遅ればせながら慌てて勉強を始めた私でした。さしずめ彼は私の音楽以外の指導者で、私は生徒のような関係にありながら、いつの間にか二人の間には恋が芽生えて行き、ついに私の20歳の誕生日を眼前にしたある日、プラハの日本大使館へ「六法全書」を調べに行き、日本の民法では「20歳からの結婚は本人の自由意思で決定可」という条項を探しあてたのです。それをタテに日本の両親に結婚の決意を告げたところ、それは天地をひっくり返すような大ショックを与えてしまいました。

「えっ、もう結婚するですって?」「相手はメキシコ人?」「とんでもない!」と。

当時の日本では、メキシコには世界的に有名なマヤ文明のみでなく、その他にもさまざまな高度な文明が紀元前からあったことも、16世紀にはすでに大学が創設されたことも、科学者も哲学者もノーベル文学賞を受賞するほどの詩人も居たりすることなど、全くと言ってよいほど知られていなかったのですから、私の両親や兄弟にとっても無理もない反応ではあったのですが、あれから半世紀以上も経った今日の日本でさえ、メキシコの本当の姿については未だに良く知られていないと言いはないではないでしょうか。それは学校教育やマスコミも含めて、知ろうとしない日本人が多すぎるからなのです。往々にして無意識のうちにも自分を縦軸の中央レベルに置き、自分より上、または下という概念で表面的に他人や他国の文化、文明度などを計る悪しき習慣を、何故か日本人は身につけてしまっているように、私には思えてならないのです。

結局、私のヴァイオリンの主任教授が彼と数回にわたって会って下さり、彼の博識ぶりや有能さを私の両親あての手紙に書いて送って下さり説得に成功。1960年12月、有名な中世からの時計台があり、由緒あるプラハのタウンホールで私は、そのメキシコ人と結婚式を挙げるまでになったのです。



運命のメキシコと日本の再発見

この日からの私は自分の人生の道を、いわゆる地球の「表側」からだけでなく「裏側」からも見る目も持って、丸い地球の中を歩み出すことになりました。

それまで日本で受けていた音楽教育からも、ヨーロッパに来てからも、常に私は「西欧の」、つまり「勝者のメガネ」を通して見ていた地球が、「メキシコの」、つまり「敗者のメガネ」を通して見られるようになったのだと言えるでしょう。西欧諸国による植民地主義がヨーロッパにもたらした未曾有の経済発展による表側の輝かしい科学技術や、のみならず文化芸術に至るまで「追いつけ・追い越せ」で走り続けてきた明治時代以降の日本からは、決して見えない、武力征服後に

やって来た植民地主義の、絶句させられるほど過酷な「敗者」への人間性否定の搾取の歴史を、私はメキシコの間部で「先住民コーディネーターセンター」(Centro Coordinador Indigenista)所長として働く彼の傍で生活しながら、その信じられないような、この500年ほどの人類史を目の当たりにすることができました。

大農場主たちは自分のことを「理性のある人々」(つまり、まともな人々: *Gente de razón*) と言い、インディヘナ(先住民)のことを「理性のない人々」(つまり、まともではない人々: *Gente sin razón*) と呼んだり、栄養失調でやせ細った赤ちゃんを抱く母親への褒め言葉は、「なんて可愛い」¡Que bonito!ではなく、「なんておデブちゃん!」¡Que gordito!と言わねばならないことなどは、ワステッカ地方に住むまでは、私の知らないエチケットでした。都会ではまず耳にしない驚くべき習慣ですから…。

メキシコが私に教えてくれたことは、このようにメキシコに住みながら、メキシコで体験、経験したことのみではなかったのです。実は1964年から、彼が日本の文部省が海外から招く研究員として東大の人類学研究室に在籍し、2年間を東京で一緒に暮らしていた頃のことです。東大には当時、日本人女性と結婚していたもう一人の外国人研究員がいました。その人はアメリカのイリノイ大学の助教授だったので、二人はすぐに仲良くなり、時には日本人の同僚たちも交えて議論をかわしながら、楽しい時間を過ごしていたのですが、そのアメリカ人が一足早く帰国してしまった後は、日本人研究員の誰もがメキシコ人の私の夫と話をしに来ないと彼が言うのです。たまに彼が何かをテーマに誰かと話をする機会ができて「それは面白い。けれども難しい。It's very interesting but difficult.」と言ってすぐに離れて行ってしまおうということでした。

ところが「まさか」と半信半疑でいた私自身がある時、電車の中でそれを目撃することになりました。立っていた私たち二人のところに笑顔で大学生風の男性が近づき、彼に「あなたと私の英語を練習させていただけますか? May I practise my english with you?」ときりだしたので、夫は「もちろん喜んで。Of course with pleasure.」と答えたのですが、それに続けて「あなたは何人ですか? Where are you from?」と訊かれたので「I'm from Mexico.」と夫が答えると、その男性は黙って、すうっと離れて行ってしまったのです。

「メキシコ人なんかから学ぶことは何も無いさ」という顔の表情がすぐに読み取れました。私の夫はメキシコ人でもスペインのカタロニアの家系なので、その日本人男性は白人と見れば全てアメリカ人、とでも思っていたのでしょう…。

また、私が日本での演奏旅行があった時には息子も連れて帰国し、子供を近所の区立小学校に体験入学させてもらいました。ところがそこには近所のアメリカ人と日本女性のハーフの同級生も居て、その子はクラス中の人気者でありながら、メキシコ人とのハーフである私の息子は、今で言うところの「いじめ」のターゲットにされ、毎日のように泣いて帰宅し、私の母、すなわち息子の祖母を悲しませてしまっていたのです。

つまり、日本人の私が一人で日本に居ては決して見えなかった日本人の外国人に対するエリート意識と差別意識が、「メキシコ人」と一緒にいることによって明確に証明されたのです。これは私の「日本再発見 Discover Japan!」で、これも「私がメキシコから学んだこと」に入るのです（笑）。

他方、ディエゴ・リベラは 1907 年からパリで暮らし、モディリアーニと一緒に住んで下宿代を折半で助け合ったり、ピカソやブラックたちとキュービズム運動に参加していました。そのディエゴ・リベラが 1922 年、メキシコ革命が一応おさまってから帰国し、あの偉大なホセ・バスコンセーロス（José Vasconcelos, Secretario de la Secretaria de Educación Pública 公共教育省大臣、つまり日本での文部大臣）の提唱する「文字の読めない同胞のために、メキシコの歴史を絵で教えるための壁画運動」に賛同してからの変身ぶりには、脱帽です。彼の壁画を見れば、誰でも植民地主義というものが一瞬のうちに理解できるでしょう。両手を後ろに縛られて、真っ赤に焼かれたコテで、家畜が盗まれないように横っ腹にオーナーの印を焼くのと同様に、額に焼印を付けられるインディヘナ（先住民）の奴隷の姿や、見せしめに高い木の枝に足から逆さに吊り下げられている Los colgados（吊るされた人々の意）の絵の前にインディヘナたちが立ったら、彼らは一体、どう感じるのでしょうか？

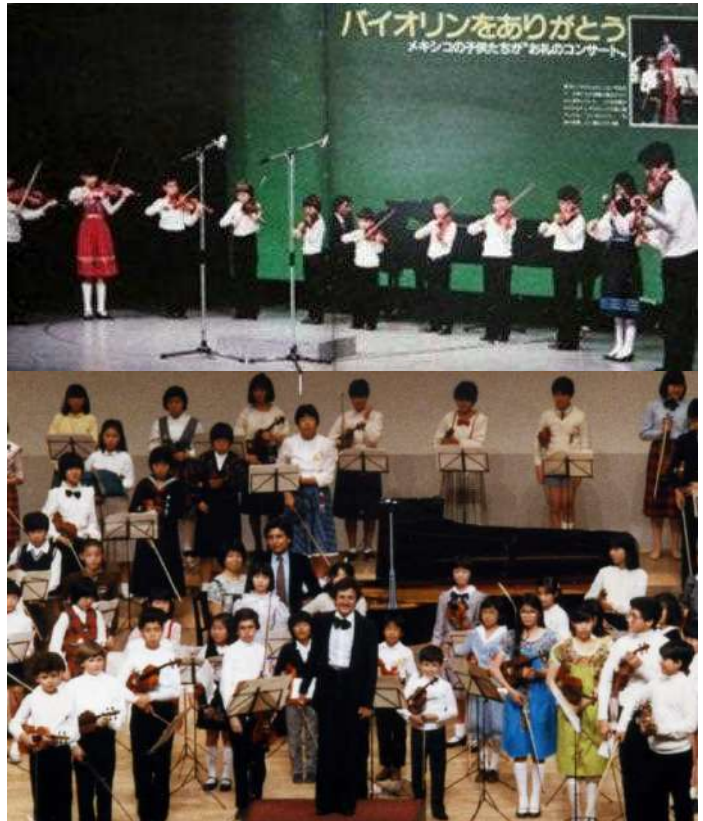
こうした体験と発見とは、あのたった三語の「ここにお掛け下さい」のお蔭だった訳です（詳しくは拙著『メキシコからの手紙』（岩波新書）を参照）。

運命のアカデミア・ユリコ・クロヌマ

この貴重な体験をワステッカ地方の暮らしで得て以来、現代文明から置き去りにされているアメリカ大陸の先住民とその末裔の人々の暮らしの様子は、私がメキシコシティに戻ってからも四六時中、自分の頭から離れることがありませんでした。そして自分には彼らのために直接何もできないという無力さのジレンマをかかえながら、しかし、実は逆に、自分の方は何と云うかけがえのない勉強と体験をさせてもらったかを痛感し、何とかその「お返しをせねば」と考え続けていた頃、演奏旅行の合間にプライベート・レッスンをしていたメキシコ人や日本人の弟子たちの親から「ヴァイオリン学校を是非とも開いてほしい」という強い要望が出てきたのです。自分には完全に未知な学校運営など「不可能」と強く辞退したにもかかわらず、「あなたはヴァイオリンのレッスンさえすれば、あとのことは父母会が引き受けます」という強引さに負けて、1980 年 10 月に「アカデミア・ユリコ・クロヌマ」なる名称の“寺子屋”のような弦楽器の学校が、シティの南部・コヨアカンに生まれてしまいました。

「自分にできることで何とかメキシコに恩返しが出来たら」と希っていた私ですので、演奏旅行で海外に出ていない間は毎日、午後にはアカデミアでレッスンをし、週末には日本人の子供たちとメキシコ人や外国人の子供たちが一緒に合奏を楽しむようになり、それはあたかも「友好の広場」に皆が喜んで集う感じでした。順風満帆の船出のようなスタートでしたが、早くも 2 年後には暗雲に見舞われました。メキシコ通貨の

ペソの大暴落があり、子供用の分数ヴァイオリンの輸入ができなくなり困りはてしましたが、幸い、日本の有志の方々に「使わなくなったヴァイオリン」の寄贈をお願いして、助けて頂きました。そこで 1985 年の春には「そのお礼に」12 名の子供たちを連れて訪日し、東京・名古屋をはじめ 7 都市で「日本メキシコ友好コンサート」を開いたり、八ヶ岳では「友好音楽合宿」もして、大いに友好が広がり、朝の NHK テレビニュースでも放映されたりしました。



ところが、両国の子供たちが音楽を通じて仲良しになったその半年後の 9 月 19 日に、世界中を震撼させた前代未聞のあの「メキシコ大地震」が起こったのです。この時の日本側のヴァイオリンを弾く子供たちとその親たちの「メキシコへ愛の輪を！」というキャンペーンによる被災者への募金活動の歴史は、どんなに時間が経っても決して消えることのない文字としてメキシコ人たちの頭に刻まれていることでしょう。「アカデミア・ユリコ・クロヌマを通して届けたい」という彼らの希望を受けて、私は国立小児科病院にその「音楽による友情の証しの募金」を届けました。それは崩壊した産院の瓦礫の下から 1 週間後に奇跡的に救出された新生児たち、世界中から「ミラクル・ベイビーズ」と呼ばれた赤ちゃんたちの治療と看護に使われました。が、私はその時まさか、いつの日か彼らと再会するだろうとなどは夢にも考えていませんでした。

ところが 1995 年の「アカデミア・ユリコ・クロヌマ 15 周年記念コンサート」の準備中に、「もしや？」と思い当たったのです。私は国立小児科病院に招待状を届けてもらいました。何と首都にまだ残って成長し続けていた「奇跡の赤ちゃんたち」7 名が、すでに 10 歳になっている姿で、医師や看護婦さんたちに連れられてコンサートホールにやってきたではありませんか！中には片腕の袖が明らかに空洞に見えたり、車椅子に座った子供もいましたが、みな嬉しそうにコンサートの最後の曲にまで拍手を送ってくれながら聴き入

っていました。私は演奏中にも、前から3列目に並んで座っていた彼らに目を走らせながら、感動で胸が一杯になり、あふれる涙をこらえられませんでした。

ヴァイオリンの家・日本メキシコ友好の家

初めてメキシコの地を踏んでから半世紀以上も経った今日、メキシコでの生活を切り上げ、母国日本に帰国する決意をした私が落ち着いた土地は、やはりメキシコとは切っても切れない「縁」で結ばれている千葉県御宿町でした。

1609年、フィリピンからメキシコへの帰途、岩和田（現・御宿町）の田尻海岸で座礁した帆船サン・フランシスコ号から317名もの遭難者を救出した歴史を誇るこの町に「ヴァイオリンの家・日本メキシコ友好の家」を創った私は「どんな物事にも表裏があること」や、その他もろもろの世界の現実を見る目など、多くの貴重なことを学ばせてくれたメキシコに感謝し、過去の歴史を糧にしながら、未来に向けて日本・メキシコ両国の友好の絆をさらに強めて行きたいと願いつつ、コヨアカンのフリーダ・カーロの家と同じ色の、その「青い家」を中心に活動を続けています。昨年9月にチアパス州、オアハカ州、モレロス州を襲った大地震の折には早速、被災者たちのための募金活動をこの「青い家」からスタートさせました。

その1階には100冊余りのメキシコに関するスペイン語、英語、日本語による書籍、画集、写真集などが自由に手に届く棚に置かれ、おそらくそれは日本中で他の追随を許さないメキシカン・コーナーではないでしょうか。2階のワタベ・コレクション・ギャラリーには、私のために故・渡部高揚が世界中から集めた700個に近い木や鉄、ブリキやガラス、陶器や布製などのヴァイオリンを弾く人形が展示されており、3階のポンセホールと命名されたサロンは、弦楽器によるミニコンサートや講演会、DVDによるオペラや映画鑑賞会に使用されています。

この「ヴァイオリンの家・日本メキシコ友好の家」は、非営利一般社団法人の認可を得ているので、すでに100名ほどのメンバーが入会している「友の会」があり、運営費には協賛金を集めながら維持されていますので、「メキシコ大好き人間」の方々には是非とも「集いの広場」として足を向けて下さるよう、お待ちしております。週末の土曜日と日曜日および祝日の11時から4時までオープンしています。

あの「たったの三語」による誘いに乗って同席してしまった自分を振り返ってみると、「何とも不思議な人生を歩むことになってしまったものだ」と微笑しなくなるのを抑えることは不可能ですし、もし自分がメキシコと出会っていなかったら、一体どんな人間になって、今日の世界をどんな風に眺めているかしら…。あの「運命の三語」を無視して、あのテーブルに座っていなかったら、どんなヴァイオリニストになっていたのだろうか、と思いをめぐらすだけでも奇妙な気分になります。

「プリーズ・シッダウン・ヒア」の声をかけてもらえて、あの椅子に座ってしまっただけで本当に良かったと思っています。

「メキシコありがとう！」 ¡¡GRACIAS MEXICO !!

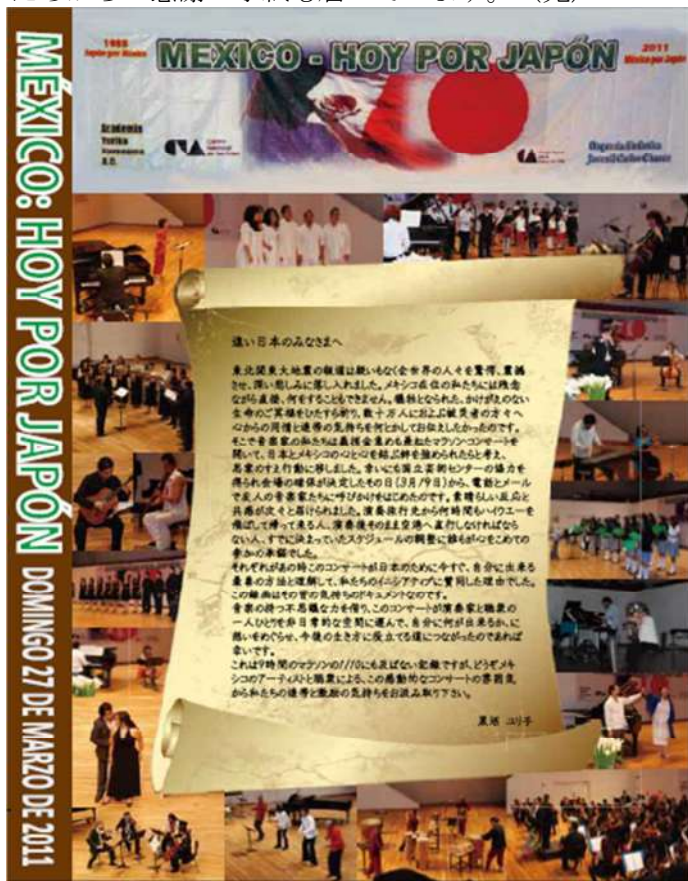
【補遺】

2011年3月11日の「東日本大震災」のニュースに驚愕して3月27日、国立芸術センターで9時間にわたるマラソン・コンサートを開き募金活動をしました。メキシコ人の音楽家たちがのべ200人無料出演をしてくれました。「1985年、日本はメキシコに。2011年、メキシコは日本に。



MEXICO: HOY POR JAPON (メキシコ、今日は日本のために)」というキャッチフレーズを掲げました。当時の小野大使もご列席。日本の子供たちとの連帯を表明した児童画をホールの壁に貼ったりビデオで投影したり。そのマラソン・コンサートのDVDを売って、さらに日本でも募金活動を展開しました。

そして前述のように、2017年9月7日のメキシコ大地震（チアパス・オアハカ・モレロス3州）への緊急募金を御宿の「青い家」から発して、12月にはメキシコのメソジスト教会を通してお届けしました。被災者たちからの感謝の手紙も届いています。（完）



DVD「マラソン・コンサート」の表紙

【編集部注：主な著書に『メキシコからの手紙』『メキシコの輝き』（共に岩波新書）、『アジター・マ・ノン・トロポ』（未来社）、『ドヴォルジャーク』（リブリオ出版）、『ヴァイオリン・愛はひるまない：プラハからメキシコへ』（海竜社）などがあります。ご一読をお勧めします。】



御宿を訪ねて—メキシコと私 ～黒沼ユリ子のヴァイオリンの家一周年記念コンサート～

会員 加藤 勝巳

“ドヴォルザークはニューヨークのナショナル音楽院の院長としてアメリカに招かれ、1892年から3年ほど米国滞在、1893年にかの有名な交響曲第9番（新世界より）を作曲しました。そのドヴォルザークが、同じ年の夏の休暇時期に僅か半月で書き上げた美しい曲、弦楽四重奏曲第12番（アメリカン）を演奏します。ドヴォルザークは、祖国（チェコスロバキア）への思いに耐えがたいほどホームシックに罹っていた時で、休暇を過ごしたアイオワ州に家族を呼び寄せた時の作品です。同州のスピルヴィルにチェコの移民集落があり、そこに行って一気に書き上げた曲ですが、大変完成度高く、美しい曲です”と黒沼ユリ子女史の冒頭解説から始まったコンサート。



（トークが長くて皆に笑われて —写真は黒沼さん提供）

作曲家ドヴォルザークが異国で久しぶりに家族とチェコ語で団らんしている情景が浮かび、感動したのが、昨年10月1日（日）に開催された御宿の「黒沼ユリ子のヴァイオリンの家—日本・メキシコ友好の家」での一周年記念コンサートでした。アミーゴ会からの同コンサートの案内メールを受信。すぐに予約して、当日は横浜から車で御宿へ、約1.5時間の道のり。木造で、50席のコンパクトなボンセ・ホール（ヴァイオリンの家の3階のコンサートホール）は、開演前から大勢の来場者で一杯。世界に著名なヴァイオリニスト黒沼ユリ子女史の弦の響きに直に接して、まさにこれが音の豊かさ、耳にやさしいアコースティックの音と、うっとり酔いしれた次第。弦楽器演奏、室内楽などを聴くには、こんなに贅沢なホールは無いと、演奏に堪能したコンサートでした。

黒沼ユリ子さんの力強く、表現豊かなヴァイオリン演奏と、コンサートを支えるマネージャー、指揮官の実のお姉さま、黒沼俊子さんのご尽力に接して、御宿の旅を満喫。当日昼には、開催中の「日・西・墨友好



の絆」交流イベント会場に赴き、地元のイッピン（逸品）、生きた伊勢海老の網焼きを食しながらマリアッチの生演奏も堪能した。

皆さん既にご案内の通り、御宿は、1609年（慶長14年）9月30日未明、スペイン領フィリピンの総監ドン・ロドリゴが任務を終えてメキシコ（当時スペイン領）へ向っていた帆船サン・フランシスコ号に乗船、途中嵐に遭遇し漂流、御宿の岩和田海岸に座礁した地。乗組員総勢373人中、56人は溺死したが、残る317人は岩和田村民が救出した。この時村の女性、海女たちは異国の遭難者を素肌で暖め蘇生させたと伝えられている。

10月2日（月）、「ヴァイオリンの家」で紹介して頂いた御宿海岸の白浜沿いのホテルでの朝食バイキング時のことです。前日、黒沼ユリ子女史のヴァイオリンを是非拝聴したいとて石田町長がお連れしてコンサート会場に来られたメキシコはプエブラ州のテカマチャルコ（Tecamachalco）市の市長さん一行4名と偶然お



会いした。忘れかけていたメキシカン・スペイン語を思い出しつつ、40年前のメキシコ駐在時代を思い起こし、懐かしく歓談した次第。テカマチャルコ市はドン・ロドリ

ゴ総監の生誕地で、2013年10月に御宿と姉妹都市協定を締結、今回は御宿町のお招きで来日された由。

ホテルを出て、ドン・ロドリゴ上陸地、日・西・墨三国交通発祥記念の碑、ロペス・メキシコ大統領来訪記念の碑（メキシコ公園）に立ち寄る。ロペス大統領来訪記念の碑の前では、メキシコ在住時代に想いを巡らした次第。ロペス大統領は1978年（昭和53年）11月1日に国賓として来日され、まずはメキシコにとって忘れられない御宿町を訪問されている。若者たちが担ぐ神輿に乗り、日の丸の扇を高くかざして、「エルマーノ！」（兄弟よ！）と連呼して、町民の歓呼に応えられたと記念碑に書かれていた。

そうだ、私は1978年8月7日にメキシコに赴任、約5年滞在。1978年は、日本から園田通産大臣（当時）が来墨され、メキシコ原油を是非日本にとメキシコ政府に懇請された年。現地新聞では、園田大臣は各種武道に精通の方、もしメキシコ原油輸入が実現しなかったら「腹切り」しますとメキシコ側に言ったとか言わなかったとか話題になったこと、また、メキシコ原油の最初の日本到着時期に合わせて大統領が訪日されたとも記憶しています。

メキシコでは毎年9月1日に時の大統領の3時間近くに亘る施政方針演説（大統領教書）がありました。（ある日本企業のトップが演説会場に招待され、現地の支店長の計らいでしかるべき席を手配して置いた。ところが大統領スピーチが終わって、その後、そのトップは支店長に、言葉は解らず、さりとてあの席では居眠りも出来ず、席も外せずとボヤイタなど面白い話もありました。）そういえばロペス大統領には、スピーチの締め括りに常に使うフレーズがありました。曰く

¡México vivía, México vive, México vivirá, Viva México! (昔も、今も、将来も、メキシコ・バンザイ！)

同期有志で傘寿を祝う歳となり、昨日何して、何を食ったかも思い出せぬ今日この頃ですが、印象深く残る過去の事象は消えないものです。



東京駅から JR 特急「わかしお」で 1 時間 20 分、御宿駅で降りて、メインストリート「ロペス通り」を真っすぐに歩くと、ほどなく「フリーダ・カーロの青い家」をイメージした鮮やかな青い家が見えます。「黒沼ユリ子ヴァイオリンの家一日墨友好の家」です。皆さん、御宿の旅をお勧めします。(了)

【編集部注：掲載写真は特記あるものを除き筆者撮影】

「ヴァイオリンの家・日本メキシコ友好の家」
ご支援のお願い

黒沼ユリ子

いつの間にか 70 歳を越した私は「人生の最終楽章はやはり母国で」の決意に至り、メキシコの 2 都市（アカプルコとテカマチャルコ）と姉妹都市である千葉県御宿町に居を定め、駅前のロペス通りにみつけた空き家を一軒購入して改装。2016 年 9 月 30 日、アルマダ駐日メキシコ大使のテープカットによって「黒沼ユリ子のヴァイオリンの家・日本メキシコ友好の家」としてオープンしました。20 世紀のメキシコを象徴する世界的な女流画家フリーダ・カーロの家と同じ青色で外壁を塗装したこの家を「音楽を愛し平和を希う人々が楽しく集うスペース」として生まれ変わらせました。

1609 年 9 月 30 日未明、帆船サン・フランシスコ号が田尻海岸沖で座礁した折、317 名ものメキシコ人乗員を救出したという、人類愛の模範を示すような歴史を持つ御宿町。この誇らしい美談のレベルを超えるには、今後さらに日本とメキシコとの絆を大切にしつつ、ますます国際的な芸術・文化交流を広げ、進めて行かねばならないでしょう。

2017 年 7 月 4 日には一般社団法人としての認定も受けた「黒沼ユリ子のヴァイオリンの家・日本メキシコ友好の家」を、子供たちの未来のためにも、国際交流活動の拠点として活用しようではありませんか。

私共の活動と運営、継続・発展に不可欠な資金のために、ご支援・ご協賛のご寄付を頂けましたら、この上なく幸いです。

- 2017 年 12 月 15 日
- 友の会：会費 3,000 円/年—情報提供・割引特典あり
- 協賛金：個人 10,000 円/口 団体 50,000 円/口
- 支援方法などの詳細は下記宛て照会ください。

e-mail：casa.violin.930@gmail.com

【編集部注：「黒沼ユリ子よりご支援のお願い」を編集人の責任で簡略化のうえ転載しました。会員の皆さまのご支援を期待します。】

トピックス 1

4 月 1 日から夏時間スタート

2018 年 4 月 1 日(日)より夏時間がスタートします。メキシコ時間 4 月 1 日の深夜 2 時が深夜 3 時と 1 時間進んで、日本とメキシコシティの時差は 14 時間となり、例えば同市の朝 9 時は日本の夜 11 時になります。また夏時間の開始に伴い、旅行先によってはフライトの離発着時間も変更されていることがあります。

- ◇夏時間ありの地域と日本との時差
- ①メキシコシティなど東・中部各州(除キンタナ・ロー州)：マイナス 14 時間
- ②ロスカボスを含む BC 南、ソノラ(夏時間なし)、シナロア、チワワ、ナヤリット各州：マイナス 15 時間
- ③ティファナのある BC 北州：マイナス 16 時間
- ◇夏時間なしの地域と日本との時差
- ④カンクンを含むキンタナ・ロー州：通年マイナス 14 時間

なお、夏時間は 10 月最終日曜日まで適用予定です。

トピックス 2



2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）に向けて、広島県が 2018 年に 13 競技、2019 年に 20 競技のメキシコ選手団の事前合宿を受け入れます。東京 2020 大会に向けたメキシコオリンピックチームの広島県内での事前合宿について、先にメキシコオリンピック委員会は 26 競技の事前合宿を県内 10 市町で行うことを発表しています。広島県は事前合宿受入を契機にスポーツ・文化・経済などの分野での交流活性化を進めるべく、メキシコ五輪委員会と事前合宿の誘致交渉を進めていました。

2018 年は 4 月から 9 月に 13 競技 300 人規模の選手団が合宿で広島県を訪れる予定です。

☆2018 年の合宿予定一覧(競技・合宿地・日程)：
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/230/2018nittei.html>

トピックス 3

120 AÑOS ARGENTINA-JAPÓN 100 años JAPÓN ECUADOR 018 - 2018

日本・アルゼンチン修好 120 周年 (TEMA ESPECIAL) 日本・エクアドル外交関係樹立 100 周年

FESTIVAL de CAMINO A LATINOAMERICA

第 1 回 ラテンアメリカへの道 フェスティバル

概要

- 日時：2018 年 5 月 3 日(祝・木)、4 日(祝・金)、5 日(祝・土) 8 日共 11:00-19:00
- 場所：海区台電の東ストラムナード
- 主催：C・A・L 実行委員会・日本ラテンアメリカ文化交流協会
- 共催：(一社)東京国際都市まちづくり協議会

中南米各国との友好の輪の広がりとは拡大深化を祈念して第 1 回が開催されます。各国団体のテントを中心に民族舞踊・民族音楽・民芸品・観光(世界遺産)・食文化の紹介もあります。南米大陸との国際交流・文化交流・スポーツ交流を目指します。5 月 GW は“中南米！”で。☆詳細：<http://latinoamerica.at.webry.info/> (了)

「チアパスに入植したエノモト移民と、榎本武揚について」

(その2)

第2回講師 作家 山本厚子

メキシコ・日本アミーゴの会主宰の「メキシコ歴史文化講演会」の第二回に招かれ、私は「チアパスに入植したエノモト移民と、榎本武揚について」という題でお話いたしました。そして会報「アミーゴ会だより 1月号」に(その1)として「エノモト移民の概略」について述べました。今回は、(その2)として移民を派遣した「榎本武揚」その人について述べたいと思います。

海外で国際感覚を養う

榎本武揚は、1836(天保7)年に江戸の御徒町で旗本の次男として生まれました。10代で、蝦夷の使節団に加わり、20代で徳川幕府が派遣したオランダへの留学生として5年間を過しました。

帰国すると国内は大政奉還、王政復古と、混乱してゆきます。戊申戦争を経て、明治時代へと移ります。

明治6年、ペルーとの国交樹立で問題となったのは、奴隷船マリア・ルス号事件でした。ロシアに国際調停を任せることになったこの事件の日本側代表者が榎本武揚でした。ロシアに赴いた榎本は勝訴に導き、国際的に外交手腕を評価されました。



オランダ留学前

ロシアの次に、清国に公使として派遣され、李鴻章と親交を結び、日清条約締結時に裏で活躍しました。新生明治政府は国際政治への登壇を迫られていました。

一方、1888(明治21)年、日墨修好通商条約が締結され、メキシコシティに日本の公使館が開設されます。当時のディアス政権は日本人の移民誘致に乗り気でした。国内の鉄道敷設に必要な労働力を確保するため、日本人に注目したのです。

榎本武揚はオランダで建造された開陽丸を回航し、ブラジルのリオを経由して帰国します。徳川慶喜の軍事顧問団として来日したフランス人兵士たちは、日本に来る前はメキシコで戦闘に参加した者たちで、函館戦争で榎本を補佐していました。

外務大臣に就任する

戊辰戦争で政府の敵となり、榎本は東京で収監されました。釈放されると北海道の調査に情熱を注ぎます。

その後、1891年、第一次松方正義の内閣で榎本は外務大臣に任命されます。訪日していたロシアの皇太子が襲撃される事件が起こり、青木周蔵外務大臣と西郷従道内務大臣が引責辞任した後任でした。榎本56歳です。

外務大臣に就任するとすぐに榎本は岡部次官を更迭し、兵庫県知事であった林董を次官に抜擢します。そして、大臣官房に「移民課」を設置し、課長兼通商局長に安藤太郎を、取調局長に栗原慎一郎を任命します。今風に言えば「お友達人事」ということになります。

海外で列強の殖民政策を目にして、榎本は「殖民・移住」という夢を膨らませてきました。この事業を実現しようと願い、安藤太郎に計画を手伝わせるのです。

安藤太郎は若くして蘭学や英語を学び、築地の軍艦操練所や横浜のフランス国陸軍伝習所などで軍事訓練を受けました。戊辰戦争時には見習い二等士官として回天に乗艦します。五稜郭で榎本と共に闘い、降伏後に函館台場に禁錮されました。



釈放後、彼は明治政府の下で大蔵省に入りました。後に外務省に移り、香港、ハワイなどの領事を歴任します。榎本武揚駐清国公使の下で精力的に活動した経験が買われ、上海領事館勤務もします。そして榎本武揚の移住事業に奔走します。「エノモト移民」がチアパスに入植する話に、安藤の活躍を忘れることは出来ないでしょう。



安藤太郎

民間の殖民協会を設立：

榎本武揚は1892(明治25)年に民間の「殖民協会」を設立し、殖民事業を進めようとしています。これは、英国移民情報局を模範とする殖民に関する民間団体でした。

「…当面の事業としては、ただちにこれを実行に移すのではなく、わが国の世論を作与して殖民の事業を奨励し、海外探検の実況を報告して、内地人の注意を喚起するものである…」と、榎本は協会設立の主旨を述べました。

メキシコに移住の適正地を探すために、代議士の根本正、農学者の樋口文蔵を調査団として派遣します。

1895(明治28)年、榎本は「墨国移住組合」を組織し、総額5万円を集めることを目標とします。組合員は23名、集まった資金は17,800円で、榎本が1万円出資します。

翌年、「日墨拓殖株式会社」を設立します。1株50円の株式を4,000株発行する株式会社です。

榎本は松方内閣終了で外務大臣を辞めていましたが、第二次伊藤博文内閣で農商務大臣に任命されました。安藤太郎は農商務省の商工局長に任命され、榎本が大臣を辞任するまで補佐役として支えました。榎本から安藤宛ての書簡の内、38通は「エノモト移民」に関するものでした。

そして1897(明治30)年1月、メキシコシティで、室田義文総領事とマヌエル・フェルナンデス農商務・殖民大臣の間で、「チアパス州における官有地の土地購入契約」が調印されました。これを受けて、日本国内でメキシコへの移民募集が行われたのです。

太平洋に定期航路が開設

メキシコへの移住実施には、太平洋に定期航路が開設されるという背景がありました。榎本が逓信大臣であった1885(明治18)年、郵船汽船三菱と共同運輸会社が合併して「日本郵船会社」が設立されました。この会社の創設願書は農商務大臣西郷従道に提出され、逓信大臣榎本武揚が許可を与えました。

太平洋航路開設について、日本郵船の森岡社長は1887(明治20)年に松方大蔵大臣、榎本逓信大臣に伺書を提出しています。そして、太平洋航路は日墨修好通商条約が締結される時期に開設される手筈となりました。日本郵船の幹部との会合の席で榎本は、「メキシコへの殖民計画には、日本の船会社による太平洋航路の開設が不可欠であろう。君たちが頑張れば将来は大きく開けるだろう…」と、メキシコへの殖民移住の実現に意欲を示しました。ところが、政府からの助成金問題などから、すぐに太平洋航路は開設されなかったのです。

大臣を辞した後も、榎本は政府の政策を待つことなく、1893(明治26)年に「殖民協会」を設立し、逓信大臣黒田清隆宛てに「墨豪二航路に関する意見書」を提出します。当時は豪州線、欧州線、米州線が妥当と考えられていましたが、榎本は豪州の次にメキシコ線を置く必要性を強く説きました。

1896(明治29)年に、「航海奨励法」と「造船奨励法」が議会の承認を得ました。そして、香港とシアトル間に月一回の定期航路が開通することになったのです。同年8月1日、神戸港から三池丸がシアトルに向けて出航しました。「エノモト移民」がメキシコ・チアパスへ向かう7ヶ月前のことでした。

「エノモト移民」チアパスへ向かう

そして、1897(明治30)年3月24日、横浜港の大栈橋から太平洋汽船会社の便船「ゲーリック号」に、草鹿砥寅二を監督とする「エノモト移民」36名が乗船しました。27日付けの「ザ・ジャパン・ウィークリー・メール」紙に、乗船名簿が掲載されていますが、彼らの名前はありません。ひっそりとした移民団の出航でした。榎本武揚は足尾銅山事件で責任を問われ、農商務大臣を辞任する時でした。

エノモト移民団を乗せた船はハワイ、サンフランシスコに寄港。その後メキシコのアカプルコ港、サリナス港を経由して南部チアパスへ向いました。監督の草鹿砥寅二(愛知)に率いられてメキシコへ渡った「エノモト移民」のメンバーは次の通りでした。

一) 自由渡航者:

照井亮次郎(岩手) 高橋熊太郎(宮城) 太田連二(宮城) 菅原幸穂(岩手) 清野三郎(宮城) 白井要作(愛知)

二) 契約移民:

太田弥作(桑港上陸) 畔柳緑蔵(愛知) 村松石松(愛知) 山口金助(愛知) 山田新太郎(愛知。船中で病死) 山本千吉(愛知) 杉浦篠松(愛知) 三井久吉(愛知) 米沢兵次郎(愛知) 鈴木平太郎(愛知) 山口徳太郎(愛知) 鈴木応次(愛知) 岡田六蔵(愛知) 鈴木若(愛知) 山本浅次郎(愛知) 杉浦仁作(愛知) 松本栄吉(愛知)

知) 渡辺平(愛知) 仲村善平(愛知) 野沢為三郎(愛知) 有馬六太郎(愛知) 山下栄吉(兵庫) 小林宇之助(兵庫) 坂本和太郎(兵庫) 東与市(兵庫) 大畑菊松(兵庫) 金山嘉蔵(兵庫) 橋本鶴二(兵庫) 志水芳太郎(兵庫)

愛知県出身者が多いのは、監督の出身地であり、彼が近郷に在住する人びとに移民募集を行なったからでした。自由渡航者というのは、契約はせずに自らの意思で渡航に参加する者で、現地で独自に土地を購入して植民事業を行うのを目的としていました。

「エノモト移民」のチアパスでの生活・歴史については、(その1-「1月号」)で述べた通りです。

ペルー、ブラジルへと広がる日系人移住

南部チアパスへの「エノモト移民」に続いて、メキシコには1901年から07年までの間に8,706名が契約移民として北部の炭鉱、綿花耕地などに送られました。

そして、1899(明治32)年、佐倉丸で790名が南米ペルーへ渡りました。1908(明治41)年、笠戸丸でブラジルのサントスに到着したのは781名でした。一世紀以上の日系移民史の中で、ペルーには日系大統領アルベルト・フジモリが誕生しました。

「エノモト移民」のひとり、自由渡航者の照井亮次郎は1928(昭和3)年、早稲田大学の浅見登郎教授に宛てた書簡の中で、榎本武揚に対する想いを次のように記しています。

「…榎本武揚子爵の精神は、爾たる一拓殖会社と共に朽つることなく、今尚ほ断乎として吾人の胸中不断の生命となって宿り居るものに候。五稜郭に捨つべかりし残軀を墨國の野に晒して伴食宰相の汚名を濯ぎ、光輝ある生涯の最後を飾らん事を子爵に勧告したる小生は、今日の殖民地見ずして逝かれたる老子爵を悲しみ、帰國毎に一度は必ず本郷駒込の吉祥寺の墓前参拝して心計りの報告を潜かに子爵の霊に捧げ居り候…」と。

1908(明治41)年10月26日、榎本武揚は永眠します。享年72でした。

そして、2007(平成19)年10月20日、榎本家の菩提寺・駒込の吉祥寺で、200名以上の人びとが参列し、僧侶の読経が響く中しめやかに「榎本武揚100回忌法要」が挙行されました。

「殖民・移住事業」と並行して、榎本武揚が情熱を注いだ教育事業は農学校の設立でした。それは「東京農業大学」と成長し、多数の卒業生たちがラテンアメリカ地域で活躍するという花をつけ、実を結んでいます。

私の講演の概略を、(その1)、(その2)で述べました。ラテンアメリカ地域の「殖民・移住」史の1ページを埋めた「エノモト移民と榎本武揚」についての講演が、日墨交流に少しでもお役にたてば幸いです。

メキシコ・日本アミーゴ会のメンバーの益々のご活躍を祈念いたします。(完)



第一正装姿の榎本
(墨田の梅若公園内)

夏休みにメキシコへ！



会員 メキシコ観光 磯辺厚子

4月。早いもので、今年ももう3か月が過ぎてしまいました。旅行好きの方は、ゴールデンウィークよりもさらに先の夏休みに既に目を向けている事でしょう。弊社でも夏の旅行の問い合わせが徐々に入ってきています。夏の旅行をお考えの方は早めに動かれることをお勧めします。

早めの予約がおとく

ゴールデンウィークや夏休み・年末年始はピークシーズン、他の時期はオフシーズン、といったシーズンリティによって航空券代が違います。最近はそのに加えて、フライトが込み合ってくると航空券代が高騰していくというシステムになっています。同じエコノミークラスの座席でも、滞在期間やキャンセルポリシー等の条件の違いによって7~8種類の料金に分かれており、当然安いものから売れていきます。ですから込み合ってくると高い料金の航空券しか残っていないのです。早めに予約をした方がリーズナブルな料金の航空券を手に入れることが出来るという仕組みです。

1日2便の直行便

昨年2月からANAが成田-メキシコシティ間を毎日運航、その1か月後からはアエロメヒコ航空も週5便から毎日運航へと増便し、今や日本-メキシコ間には1日に2便も直行便があります。メキシコへもだいたい行きやすくなったので、夏休みを利用してメキシコに足を伸ばしてみようかとお考えの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

ANAとアエロメヒコ航空のフライト情報は下記の通りですので、ご参考にして下さい。

全日空 ANA

往路：成田 16:55 発→メキシコシティ 15:20 着
NH180 便

復路：メキシコシティ 02:20 発→成田翌日 06:40 着
NH179 便

*成田は第1ターミナル南ウィング。

メキシコシティは第1ターミナル。

*機種はボーイング 787-800。ウォシュレット付のトイレ。プレミアムエコノミークラスあり。

アエロメヒコ AM

往路：成田 14:25 発→メキシコシティ 13:20 着
AM057 便

復路：メキシコシティ 01:55 発→成田翌日 06:20 着
AM058 便

*成田は第1ターミナル北ウィング。

メキシコシティは第2ターミナル。

*機種はボーイング 787-800。

アミーゴ会員限定「お盆休み9日間の旅」

メキシコ観光では、予約が取りづらいお盆休みに合わせてアエロメヒコ航空ご利用+メキシコシティ2泊+フリーのツアーをご用意しました。メキシコシティ以外にはカンクン、オアハカ、グアナフアト、という

いろ足を伸ばしてはいかがでしょうか。

旅行を検討中の方、ご興味がある方は下記までどうぞお問合せ下さい。

締切日：6月8日（金）

株式会社メキシコ観光（担当：磯辺）

e-mail：pasela_tyo@pasela.mexicokanko.co.jp

TEL：03-5643-6161



～ メキシコシティ2泊+フリー ～

お盆のピーク時を少しだけずらしたこの時期に、直行便でメキシコへ！アミーゴ会員様だけにお届けするこちらのツアーは、航空券とメキシコシティ2泊だけをセットしたプランです。あとはメキシコシティに延泊するもよし、オアハカやグアナフアト等を周遊するもよし、カンクンに行くもよし。自由自在にアレンジが可能です。

旅行期間 2018年8月8日(水)～8月16日(木)

旅行代金 198,800円 (2名1室ご利用)

お一人部屋追加料金：19,000円

※別途、燃油サーチャージ(3月現在21,000円)、
空港使用料11,000円が掛かります。

最少催行人員：6名様

定員：15名様

申込み締切日：6月8日(金)

☆料金に含まれるもの：航空券代、メキシコシティ2泊の宿泊代(お二人で一部屋ご利用)(税込)、1日目の送迎代(専用車、日本語ガイド付)、朝食代(2回)、ポーターチップ(お一人様お荷物1個)。

☆料金に含まれないもの：上記以外の食事代、食事時のお飲物代、枕チップ、その他個人に関わる費用、オプションツアー。

日付	スケジュール
1 8月8日(水)	成田発、直行便でメキシコシティへ。メキシコシティ着後、市内のホテルへ。【メキシコシティ泊】
2 8月9日(木)	朝食：ホテルにて。終日自由行動。オプションツアー等でお楽しみ下さい。【メキシコシティ泊】朝 ー ー
3 8月10日(金)	朝食：ホテルにて。ホテルをチェックアウト(延泊も承ります)。その後、フリー。(ご希望に合わせて、他都市等のアレンジが可能です。)朝 ー ー
4 8月11日(土)	フリー。(ご希望に合わせて、他都市等のアレンジが可能です。)ー ー ー
5 8月12日(日)	フリー。(ご希望に合わせて、他都市等のアレンジが可能です。)ー ー ー
6 8月13日(月)	フリー。(ご希望に合わせて、他都市等のアレンジが可能です。)ー ー ー
7 8月14日(火)	フリー。(ご希望に合わせて、他都市等のアレンジが可能です。)メキシコシティ空港にてアエロメヒコにチェックイン。ー ー ー
8 8月15日(水)	夜中：メキシコシティ発、空路帰国の途へ。【機中泊】
9 8月16日(木)	早朝：成田着。

メキシコに慣れているアミーゴ会員の方だからこそ出来る、こだわりの旅に適しています。いろいろなお手配が可能です。お気軽にご相談ください。(完)

17日



18日 19日



Fiesta Mexicana 2017 in お台場 Tokyo ご報告

日本ラテンアメリカ文化交流協会 実行委員長 三村 秀次郎

「第18回フィエスタ・メヒカーナ 2017 in お台場 Tokyo」は、例年通り港区お台場のウエストプロムナードで、9月16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)の3日間にわたって開催されました。18回目となる今回も、秋のシルバーウィークではすでに恒例となっているためか、多くの人達が訪れてフィエスタを楽しんでくれました。

メインステージのプラサ・デル・ソルでは、グアダハラからの「マリアッチ・アガベ」の演奏に多くの拍手をいただき、第1回から今年まで連続出演していただいている民族舞踊の「ラス・パロミータス」の皆さんにも、大きな声援が送られました。いつも賑やかなカジェ・デル・メルカードには、飲食15テント、物販12テント、プロモーション1テントが並び、こちらも行列ができる賑わいをみせました。また協賛された6社の中には、広島県から有名な紅葉饅頭も出店されて華をそえてくれました。海側のプラサ・メヒコでは、人気のルチャ・リブレが開催されましたが、今回で5年目と定着したファンが駆け付け、盛り上がをみせていました。子供たちが楽

しめるようにと色々な企画を考え、ピニャータ割の他にもリングで遊んだり写真を撮ったり、夜にはリングがビアガーデンに変身するなど、好評でした。

今年の問題は大台風で丁度第2日目の夜襲来し、多くの被害を受けました。ステージでの演奏も中止され、お店を訪れる人も減ってしまいました。関係者の努力で大きな事故も無く、3日目を迎えることが出来ました。台風一過!! 最終日は好天になり多くの人出がありました。

野外でのイベントは天候に左右されるのは仕方ないこととはいえ、出店者や出演者の方々のご苦労を考えるととても残念でした。陰で支えてくださった多くの方々、神田外語大、明治大学の学生さんによるボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。

今回も同じ場所での同時開催によるイベントが重なり、人出が多くなるというメリットはありますが、搬入・搬出、警備、ゴミの問題等、運営・管理の点では大変気を使いました。今まで事故なくフィエスタを開催してきましたので、今後もより一層注意して運営していきたいと思えます。関係者の皆様のご協力をお願い致します。





メキシコ・日本アミーゴ会 2018年度総会・懇親会の報告

アミーゴ会事務局

総会・懇親会は2018年3月10日(土)11:30より14:30まで銀座6丁目のTOROを会場に、大使館より経済担当一等書記官 Enrique Morales 氏をお迎えし、会員55名が参加して盛大に開催されました。

2017年度決算

上原会長より開会の挨拶があり、続いて笠井事務局長より2017年度決算報告がなされました。

2017年度の会費収入は会員171名分に御宿アミーゴ会の2万円を加えた533,000円、懇親会会費等260,000円、HP広告費28,000円など、収入合計829,458円との説明がありました。

他方、支出は総会・懇親会260,000円、講演会事業120,000円、フィエスタ・メヒカーナ協賛金108,000円、創立100周年を迎える日墨協会の特別基金寄付金100,000円、アミーゴ会ゴルフ交流会補助金50,000円、その他諸経費を加えて支出合計が791,786円になりました。その結果、差引収支(期間損益)は37,780円となりました。

また南郷監査役から監査報告として、全ての書類・口座等を監査の結果、適法にして正確なることを認め、正しく決算に反映されたとの報告がありました。

2018年度予算

2018年度予算の説明で笠井事務局長は、収入は会費収入500,000円(160名×3,000円+御宿20,000円)、懇親会費200,000円、HP広告料28,000円を計上し、合計728,000円を見込むと説明しました。

他方、支出は事業予算として総会・懇親会に300,000円、講演会事業費に4回分120,000円、またフィエスタ・メヒカーナ協賛金は前年同額の108,000円を計上しましたが5月幹事会で最終決定すると説明しました。その他ゴルフ交流会補助金50,000円、西日本懇親会補助金50,000円(昨年度未支払い分を含む)、通信費・郵便料40,000円、ウェブサイト維持費25,000円、西日本幹事会への出張費40,000円(新幹線代28,000円+宿泊費10,000円)、東京幹事会経費54,000円(会場費:従来通り+交通費:出席幹事に@1,000円を新規支給)、アミーゴ会だより編集取材交通費の50,000円への増額、アミーゴ会運営費50,000円を新設して交通費他で事務局長活動費を計上し、支出合計額は914,800円との説明がありました。この結果、当期損益は186,800円の赤字を見込むこととなります。

上原会長より、フィエスタ・メヒカーナはメキシコに関する最大の意義あるイベントであり、アミーゴ会としてもメキシコ大使館ともども支援を続けたいとの表明がありました。また、編集取材交通費の増額および運営費(事務局長活動費)の新設について、会報編集人作業の煩瑣化および事務局長職務の高度化に伴う各人の努力に報いたいとの追加の提案説明がありました。

2017年決算および2018年予算 (単位:円)

収入の部	2017年決算	2018年予算
会費収入	533,000	500,000
(注)	171名分+御宿	160名分+御宿
懇親会	245,000	200,000
懇親会雑収入	15,000	0
広告料	28,000	28,000
他雑収入	8,454	0
その他(受取金利)	4	0
収入計	829,458	728,000
支出の部	2017年決算	2018年予算
総会・懇親会	225,000	300,000
総会時雑費	35,464	0
講演会事業費	120,000	120,000
ゴルフ交流会補助	50,000	50,000
フィエスタ・メヒカーナ補助	108,000	108,000
通信費・郵便料	36,912	40,000
コピー代	14,536	15,000
WEBサイトHP維持費	24,600	25,000
西日本幹事会出張費	37,590	40,000
幹事会(東京)会場費①	7,200	54,800
西日本懇親会補助金②	0	50,000
編集取材交通費③	20,000	50,000
特別寄付金(日墨協会)	100,000	0
事務用品費	6,354	6,500
アミーゴ会運営費③	0	50,000
郵貯振込票再発行手数料	514	0
振込み手数料	5,508	5,500
支出計	791,678	914,800
	2017年決算	2018年期末
当期損益	37,780	-186,800
前期繰越額	2,685,575	2,723,355
次期繰越額	2,723,355	2,536,555

①幹事会(東京):会場費@3,600円×定例3回+交通費@1,000円/人×幹事11名×年4回(定例+緊急)。

②西日本懇親会補助金:2017年未払分20,000円+2018年より30,000円に増額。

③現在20,000円のアミーゴ会だより編集取材費を50,000円に増額し、新たに事務局長活動費50,000円を計上し支給する。

*フィエスタメヒカーナ2018協賛金:5月定例幹事会で再度審議する。

2018 年度事業計画

2018 年度事業計画について、2017 年事業報告に加えて担当幹事よりそれぞれ説明がありました。



メキシコ歴史文化講演会について、担当の森幹事がインフル罹患で欠席したため河嶋幹事が、2017 年の実績（「メキシコの日系移民の変遷と史的意義」を統一テーマに 4 回実施し、延べ 250 人余の出席を得たこと）を報告し、各講師自身の執筆になるエッセンスを「アミーゴ会だより」に連載中であることを紹介した。また、2018 年は 1888 年に調印された「日墨修好通商航海条約締結 130 周年」に当たることから、これを統一テーマに講師を選定中であることと、アルマーダ大使が第 1 回講師を引き受ける旨を申し出ておられることが披露され、奮っての参加が要請されました。

ゴルフ交流会事業について南郷幹事より、2017 年は上原会長のお世話にて湘南カントリーコースで親善ゴルフ大会が開催出来たことが報告され、2018 年はメジャーである 10 月の日本オープン開催予定の横浜カントリークラブの東コースにて開催出来るよう、現在交渉中であるのでご期待下さいとの披露がありました。

会報「アミーゴ会だより」について編集人の河嶋幹事より、会員各位の投稿を得て予定通り年 4 回発行することができたことが報告され、2018 年も会員諸氏の力作投稿を期待することで年 4 回の発行を目指す方針が明らかにされた。

総会の掉尾に、上原会長より 2017 年決算と 2018 年予算を併せて総会出席者に諮り、賛成多数でご賛同・ご承認を頂き、2018 年度総会を終了しました。



最後に、笠井事務局長よりアミーゴ会の会員数は昨年末に 177 名で、今年度は多少の新規会員をお迎えするがご高齢の会員の退会も多く、年末には凡そ 170 名となると予想される旨、説明されました。さらに今後の若年会員の募集、若手幹事の募集について、会員の皆さんへの協力依頼がありました。



懇親会：トルティーヤでメキシコを思い出す

総会後懇親会に移りました。上原会長より冒頭、「今年は 1888 年に日墨修好通商航海条約が結ばれてから 130 年に当たりますが、明治政府が開国後諸外国と結んでいた条約は外国人に対する裁判権が無いなど日本にとって不平等条約でこれを如何に改訂するかが最大の課題だった処、メキシコと結んだこの条約が平等条約で、そのお蔭でそれまでの不平等条約を全て平等条約に改訂する事が出来ました。また、2004 年に締結した自由貿易協定を含むメキシコとの経済連携協定（EPA）は日本にとってはシンガポールに次いで 2 番目の協定ですが、シンガポールの場合には農産物等微妙な問題が無かった事を考えると初めての EPA と言っても過言ではありません。この様にメキシコは国際情勢の節目で、日本に対し極めて重要な役目を果たしてくれた恩を我々は決して忘れてはならないと思います」との発言がありました。



こうしたメキシコとの関係を念頭に、今後共会員相互の一層の親睦を図って会の活性化を目指す事と、会員皆様のご健勝を祈念しての乾杯の音頭のもと、参加者全員が唱和して懇親会に入りました。

懇親会では先ずメキシコ大使館の Morales 経済担当一等書記官から流暢な日本語によるご挨拶を頂いた後、会員の蔵野佳好子さん提供によるマリアッチ演奏も加わり和気藹々楽しく語り合い、杯を交わしながら時の経つのも忘れる程でした。



また、今回は本格的なメキシコ料理レストランでの懇親会でもあり、参加者は満足度の高いトルティーヤやその他の料理に舌鼓を打ちながらメキシコ生活を語り合いました。さらに今年は参加者全員にお土産のワインを、また抽選で当たった方にはメキシコビールやメキシコ代表の遠藤さん提供のテキーラをお持ち帰り頂きました。（了）

あとがき：江戸の 1609 年、難破船のメキシコ人乗組員救助という人類愛の発揮から 400 年経つが、2018 年は日本とメキシコとの近代外交関係樹立 130 周年。明治の 1888 年、日本初の平等条約はメキシコとの間で結ばれ、平成の 2005 年には日本初の本格的な EPA がメキシコとの間で発効しました。近年は自動車分野を中心に日本企業のメキシコ投資が相次ぎ、約 1,200 社が活動しています。NAFTA 再交渉の行方が懸念されますが経済分野での交流拡大のみならず、学術・文化芸術分野でも益々緊密化が進み、毎日 2 便の直行便運航が人的交流インフラとして大きな役割を果たしています。「アミーゴ会だより」も相互理解の一翼を担いたいと希みます。【20180401 か】

